

やる気と個性あふれる大蔵村のいけめんグループ

最上総合支庁推薦

大蔵村農業後継者の会 メンズ農業



特集 あの活動・取り組みは今…

農業の楽しさを伝えたい

「メンズ農業」は山形県の北部、最上地方に位置する大蔵村を中心に活動する若手農家で構成された組織である。平成23年に設立され、現在は、リーダーのこくぶんたけし國分武さん（38）をはじめ22才から42才のメンバー12名で活動している。

メンズ農業では、メンバー間の情報交換・技術伝承の集会を行うだけでなく、産業まつりなどの地域イベントに参加し、農業の魅力を発信する活動も行っている。

今年、6月24日に地元の大蔵小学校3年生の児童を対象に総合学習の一環として大蔵トマトの学習会を開催し、トマトの生育状況を観察してもらった。

メンバーは、「少しでも多くの人に農業に興味を持ってもらえるように、今後とも積極的に農業の普及・啓発活動をしていきたい」と思っている。



児童の質問に答える國分さん



トマト栽培の説明を受ける児童

これからの農業を担う若い力



メンバー最年少の松岡貴さんまつおかたか（22）は今年からトマトの栽培を始めた。トマトの栽培を始めるきっかけは、高校生の時に農家でインターンシップに参加し、トマトの栽培を実際に体験してみたらおもしろかったからとのこと。昨年はメンズ農業の先輩のトマトハウスで1年間研修を積み、今年から自分の畑でハウス4棟（面積13アール）にトマトの苗2300本を定植し、1人で管理している。

松岡さんは「困ったときはメンズ農業の先輩にアドバイスをもらえる環境が整っているので、とても心強いしありがたい」と話す。

リーダーの國分さんも「ハウス周りの雑草もなくきれいに管理しており、1年目ながらよくやっている」と太鼓判を押す。

松岡さんが生産している品種「りんか409」の特徴

- ・生食用の大玉に分類
- ・酸味（すっぱさ）が少なく、糖度（甘さ）が非常に高い
- ・抑制栽培に適している



メンズ農業の多くのメンバーはトマト栽培を主にしているが、他の高収益作物の栽培を行っているメンバーも加わった。

安彦和樹さんあひこかずき（37）は、もともと他の仕事をしてきたが、4年前に先輩、同級生に誘われてメンズ農業に加わり、現在は専業農家となっている。

農業を始めた当初は、水田で稲作を行っていたが、収益を増やすため他の作物を栽培できないか考え、露地栽培が可能で初期投資が少ない、きゅうりの栽培を始めた。また、冬にはたらの芽の栽培も行っている。